

# 「英国のオバマ」スナク新英首相は債務危機を回避し、分配と成長の超難解パズルを解けるか

木村 正人  
在英国際ジャーナリスト



非白人として英国史上初めて首相に就任したリシ・スナク氏（10月25日、筆者撮影）

## もの見事に崩壊したトラス氏の「ジェンガ」タワー

【ロンドン発】前回、大型減税を唱えるリズ・トラス氏の首相就任（9月6日）を報告してから2カ月足らずの間に英国の風景は激変した。

エリザベス女王がお亡くなりになり、チャールズ国王とカミラ王妃が即位した。2000億ポンド近い借金を一気に積み増す“カミカゼ予算”をぶち上げ、ポンド安・債券安・株安の「トリプル安」を招いたトラス氏は英国史上最短命の50日で退陣し、非白人初のリシ・スナク首相（42）が誕生した。英通貨ポンドも英国債利回りも落ち着きを見せ始めている。

英国の首相はダウニング街10番地の首相官邸前や党大会で演説する際、それぞれ自分専用にあつらえられた演台を使用する。最短命に終わったトラス氏は竜巻のように木の板をずらしながら積み上げた演台を使ったことから、タワーを崩さないよう積み木を1つひとつ取り除いていくパーティーゲーム「ジェンガ」みただと話題になった。

トラス氏は総額2000億ポンド近い積み木を一気に取り除いたため、ジェンガ・タワーは一瞬にして、もの見事に崩れ落ちた。魑魅魍魎（ちみもうりょう）が

棲む保守党内の政治力学だけを読む「鉄の風見鶏」トラス氏より、はるかに経済財政政策に長けたスナク氏が首相になっても、英国が抱える「ジェンガ」問題が解決するわけではない。

英シンクタンク、財政研究所のカール・エマーソン副所長は10月21日、「今年上半期の借入は720億ポンドで、3月に発表された予算責任庁（OBR）の予測値とほぼ同じであった。しかし家庭や企業のエネルギー使用に対する政府支援の膨大な費用が今月から本格的に始まったばかり。この数字は今年度全体の借入金額を示すものではない」と釘を刺した。

財政研究所は今年、政府の借入金は2000億ポンド近くに達し、OBRの予測より1000億ポンド近く多くなると予測する。

エマーソン副所長は「中期的に政府債務が減少することを確実にする信頼できるプランが必要だ。新首相は就任後わずか数日で大規模な財政イベントを行うより、時代の試練に耐えられるよい決定を下すため、もう少し時間をかけるべきだ」と助言した。

中期財政計画の発表は当初の10月31日から急遽、11月17日に延期された。300億～500億ポンド残っているとされる「財政の穴」をどう埋めるかが最大のポイントだ。



「ジェンガ・タワー」と評判になったリズ・トラス前首相専用の“竜巻”型演台（10月5日、保守党大会で筆者撮影）

## スナク新首相「言葉でなく、行動でこの国を団結させる」

スナク氏は下院議員に当選してからわずか7年。非白人、アジア系、ヒンズー教徒が首相になるのは英国史上初めてのことである。労働党のトニー・ブレア、保守党のデービッド・キャメロン各氏が首相になった時、2人はいずれも43歳。42歳という若さでの首相誕生は1812年のロバート・ジェンキンソン以来、実に200年以上ぶりである。

スナク氏が10月25日、首相官邸前で就任演説に使った演台はトラス氏のジェンガ・タワーとは違ってシンプルな使い古しと報じられた。

その演台の前に神妙な顔つきで立ったスナク氏は「今、わが国は深刻な経済危機に直面している。コロナ危機の余波はまだ残っている。プーチンのウクライナ戦争は世界中のエネルギー市場とサプライチェーンを不安定にした」と国民に語りかけた。ウラジーミル・プーチン露大統領は「プーチン」と呼び捨てにした。



リシ・スナク首相が就任演説で使用した演台は使い古しのシンプルなデザインだった（10月25日、筆者撮影）

「トラス氏がこの国の成長を向上させたいと願うことは間違っていないが、崇高な目的だ」としながらも「いくつかの間違いがあった。私が党のリーダーとして選出され首相になったのはそれらを修正するためでもある。その仕事はすぐに始まる」と表情を引き締めた。「経済の安定と信頼」を中心に据えるため「難しい決断を迫られる」と正直に話した。

自らが財務相として導入したコロナ危機時の休業補償制度を振り返り「常に限界はあり、これまで以上にそうなる。しかし今日われわれが直面している問題にも同じように思いやりをもって臨む。私の政府は、次の世代、皆さんの子や孫に、私たちの負債を残さない

ようにする。言葉ではなく、行動でこの国を団結させる」と誓った。

「鉄の女」マーガレット・サッチャー首相の改革を財務相として支えたジェフリー・ハウ氏は生前、筆者に「国民に正直に話さないことには経済財政改革に手を付けられない」と語ったことがある。国民にウソとデータラメを繰り返したボリス・ジョンソン元首相やトラス氏と違って、スナク氏は憲政の常道に沿って第一歩を踏み出した。

## 「深刻な経済危機」に立ち向かう決意

スナク氏が掲げる政権目標は「より強いNHS（原則無償の国民医療サービス）。よりよい学校。安全な街並み。国境管理。環境保護。軍隊の支援。平準化（レベリングアップ、地域格差を解消する政策）。欧州連合（EU）離脱のチャンスを活かして、企業が投資し、革新し、雇用を創出する経済を構築する」ことだ。

演説を終えたスナク氏はダウニング街10番地を示す「10」の飾り板がついた漆黒の扉をくぐる時、フォトグラファーから「笑って」と注文を付けられたが、いつもの明るいスナク・スマイルは封印し「深刻な経済危機」に立ち向かう覚悟と決意をみなぎらせた。ナンセンスそのものだったジョンソン氏やカオスをもたらしたトラス氏と正反対だった。

スナク氏が保守党と国民、そして世界に向けて発信したメッセージは「ノーナンセンス」。それは現実主義的で真面目、馬鹿げた考えや方法をとらず、必要なこと、意図したことを達成するために脇目もふらない姿勢を意味する。成長は減税という名の借金ではなく、創意工夫と勤勉さによってのみもたらされるという人生哲学がスナク氏にはある。

スナク氏が2015年、白人が圧倒的に多いイングランド北東部ノース・ヨークシャーのリッチモンド選挙区から出馬した時、保守党支持者は「僕が現れると、みんなびっくりした」という。しかしスナク氏はヨークシャーの価値観である勤勉さを、身をもって実践したことから、地元支持者の共感を呼び、味方につけた。

## 「英国のウクライナ支援はこれまで同様に強力」

経済や財政を優先するあまり国防・安全保障を軽視するのではとの懸念を払拭するように、スナク氏はウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領と電話会談し、「英国のウクライナ支援はこれまで同様に強力だ」と約束し、経済制裁の継続を通じて「プーチンの野蛮な政権」に圧力をかけ続ける必要性で一致した。

第二次世界大戦以来の英米「特別関係」が続く米国のジョー・バイデン大統領とも電話会談し、2国間および豪英米（AUKUS）協定が安定性を高め、中国の悪質な影響に対抗するため、インド太平洋地域などにおける英米の協力範囲について協議した。トラス氏の強硬姿勢によって著しく悪化していた北アイルランド問題に善処することでも合意した。

組閣人事もそつがなかった。トラス氏に引き立てられたEU強硬離脱派のリバタリアンで、“市場原理主義ジハーディスト”の教祖的存在ジェイコブ・リース＝モグ・ビジネス相を更迭した。

トラス氏の“カミカゼ予算”を葬り去り、市場を落ち着かせたトラブルシューター、ジェレミー・ハント財務相を続投させ、国内総生産（GDP）比3%への国防予算拡大で意見が食い違っていると右派メディアが面白がって報じたベン・ウォレス国防相を再任した。

## よみがえった平準化路線

目玉は、ジョンソン氏に解任された保守党の大物マイケル・ゴープ氏を平準化相に復活させた人事だ。トラス氏が最短命首相として仕切った先の保守党大会では“市場原理主義ジハーディスト”たちが、地域格差を解消するため産業政策や資金の再配分など政府介入を必要とする平準化路線を弱体化しようと画策していた。

成長から完全に取り残され、政治的にも社会的にも無視されてきた「レッド・ウォール（赤い壁）」と呼ばれる旧炭鉱街や脱工業地域の「オールド・レイバー（古い労働党）」支持層を味方につけ、保守党は2019年総選挙で地滑り的大勝利を取めた。20年にEU離脱。地域格差の平準化はジョンソン氏に課せられた宿題でもあった。

ゴープ氏は今年2月、2030年までに各地域に国際競争力をもった中核都市をつくり、賃金、雇用、生産性を引き上げ、地域格差を解消する332ページの平準

化白書を発表している。豊かなイングランド南東部以外の研究開発投資を少なくとも40%引き上げるなど12項目プランをぶち上げた。これが“市場原理主義ジハーディスト”たちとの深刻な対立を生み出した。

2016年、EU国民投票で離脱派に敗れた残留派キャメロン首相が辞任。19年にはEU離脱交渉を混乱させた責任を取ってテリーザ・メイ首相が辞任。今年9月、ジョンソン氏が保身のためのウソを塗り重ねて辞任。10月、トラス首相が“カミカゼ予算”で市場を混乱させた責任をとって辞任した。

日本の参院と違って上院選のない英国は通常、下院で過半数があれば次の総選挙まで政権は安定する。現在、保守党は過半数より71議席も多い議席を有する。にもかかわらず、英国の首相が猫の目のように変わる背景には保守党内の深刻な分断がある。

## EU離脱で成長より分配が優先された

研究プラットフォーム「変わりゆく欧州の中の英国」を主宰するキングス・カレッジ・ロンドンのアナン・メノン教授は世論の急激な変化を指摘する。2015年総選挙で敗れた最大野党・労働党のエド・ミリバンド党首（当時）について英紙フィナンシャル・タイムズは「格差にとらわれ過ぎだ」と批判した。

しかしEU離脱後の2020年4月、同じフィナンシャル・タイムズ紙は「万人に福利が行き渡る社会契約を実現するため集団的な犠牲が求められる。再分配がアジェンダになった」と大きく見方を変えた。サッチャー革命以来の市場主義がもたらす成長神話が政治的にガラガラと音を立てて崩れ去ったのだ。

メノン教授は「保守党政権は地域格差の解消が重要だと考えを植え付けることに成功した。このため、有権者に再分配はもう限界であると納得させるのに苦労することになるかもしれない」と同プラットフォームに寄稿している。

世論調査会社ユーガブの調査では、回答者の68%が「地域格差に取り組むため、政府は豊かな地域から貧しい地域に資金を再分配すべきだ」という意見に同意した。英国社会意識調査によると、2016年以降、政府に「増税と支出増」を望む英国人の割合が「税金と支出を今と同じ水準に保つ」ことを望む人を追い抜いた。

53%が自分の住んでいる地域は国内の他地域と比較して政府支出から公正な分配を受けていないと回答。再分配という考えは国民全体には人気があるかもしれないが、保守党に投票した人たちの間では賛否両論が分かれる。北部の90%が不当な扱いを受けていると考

えているのに対し、南部では北部への再分配が必要と考えているのは46%に過ぎなかった。

南北の分断、これが党内対立の根源にある。

## 「インドのビル・ゲイツ」のご令嬢と結婚

政党支持率で保守党は労働党に最大39ポイントのリードを許す。保守党の支持率が14%まで下がるのは初めてのことだ。保守党がここまで瀬戸際に追い込まれていなかったら、1960年代に英国に移住したインド系アフリカ移民の家庭に生まれたスナク氏が旧宗主国の首相になることはなかっただろう。

父は医師、母は薬剤師。本人は小学校から私立で学び、名門全寮制校ウィンチェスター・カレッジ、英オックスフォード大学などに進んだ英才だ。卒業後は米投資銀行やヘッジファンドで働いた。米スタンフォード大学で「インドのビル・ゲイツ」ことIT企業インフォシス創業者のご令嬢アクシャタ・ムルティさんと知り合い、結婚した。

「ディズニーランドの王子様」そのもののサクセスストーリー。英紙タイムズの2022年版長者番付によると、スナク夫妻の純資産はムルティさんが所有するインフォシス株や豪邸、高級車など7億3000万ポンド。富の測り方にもよるが、チャールズ国王の個人資産3億7000万ポンドのほぼ2倍との報道もある。

今年4月、英国国外に永住地を持つ人が年3万ポンドを納めれば英国での収入についてのみ税金を納めれば済む「ノンドム」と呼ばれるステータスをムルティさんが持っていることが暴露された。ムルティさんはインフォシス株の0.93%を所有しており、過去7年半で約5400万ポンドの配当があったとみられている。

「ノンドム」でなければこれらの配当収入に対して約2060万ポンドの税金を英国で納める必要があった。



スナク首相の母親が経営していたサウサンプトンの薬局（筆者撮影）

ムルティさんは昨年の配当約1100万ポンドに対して約433万ポンドの税金を納めることで同意している。しかし「ノンドム」に対する怨嗟の声は英国の草の根に渦巻いている。それこそ格差の象徴だからだ。

## 40年ぶり、10.1%のインフレ

英国の消費者物価指数（CPI）は9月、10.1%に達した。40年ぶりの高水準だ。一般家庭ではこの1年で植物油は65%、パスタは60%、紅茶は46%、チップス（日本でいうフライドポテトのこと）は39%も値上がりした。約半数が光熱費の支払い、30%が家賃や住宅ローンの支払いに苦勞している。

インフレとウクライナ戦争が悪化させたエネルギー危機が容赦なく襲いかかる。

生活に苦しむ英国の有権者が雲上人のような生活を送るスナク氏に共感を持つのは難しいだろう。しかし昨年の保守党大会（今年、スナク氏は戦略上、党大会には姿を現さなかった）を取材した筆者はこの難局を任せられる政治家は保守党にはスナク氏しかいないと思う。スナク氏には生まれつきの明るさと楽天主義、アイデアと思いやりがあるからだ。

EU離脱による人・物・金・サービスの供給制約、市場規模の縮小、党内や英国の分断——こうしたナラティブを変えるには「英国のオバマ」誕生しかない。筆者は昨年の党大会以来、考えてきた。習近平体制の長期化でデカップリングが不可逆的に進む中国に代わる未来としてインドを提示できる政治家は英国にはスナク氏をおいて他に見当たらない。

インドのナレンドラ・モディ首相は「私たちの歴史的な絆を現代のパートナーシップに移行させよう」とツイートした。

ヒンズー教徒のスナク氏は議会で聖書の代わりにヒンズー教の聖典を掲げ、英君主に忠誠を誓った。英国の首相として初めてダウニング街10番地で手を掲げた時、スナク氏の手首には幸運と保護を意味するヒンズー教伝統の赤いブレスレットがあった。10番地の外で儀式用のディヤ（オイルランプ）を灯した。

英国の未来は挫折らしい挫折を知らない「ディズニーランドの王子様」に託された。

（10月27日執筆）